

碩心

財団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心 会 発行

現在 会員 数名
167 名
301 名
63 名
(531 名)

60年5月号 (154号)
返子地区 者 萃
葉山地区 岳 集
大船地区 編 岳
(以上) 中 村 愛

尽忠報国

銀詠支部 中村 国山

昭和十八年四月一日、当時の三浦郡逗子町は、軍の策戦上の理由で横須賀市に合併、私達逗子町役場勤務者は、横須賀市役所逗子出張所勤務と変った。出張所に勤務の職員のうち、吉崎、上岡、綾部、中村（旧姓座間）の四人は、松井先生（現理事長）に週一回出張所の二階、海に面した部屋で、詩吟を教えてもらっていた。

その頃、つまり昭和十九年五月には、古賀連合艦隊司令長官の戦死、六月には米軍サイパンに上陸、戦局は日に日に重大な局面に変わり、市民も次々召集され、当然私等にも召集令状が来た。第一番は綾部剛君であった。松井先生は一死奉公戦場におもむく私達に、吟道精神は尽忠報国の四文字に結集されていると訓えられ、はなむけとして特別に許証を本部に申し出るので、尽忠報国の四文字を四人でくじを引くようにとのことで、結果は吉崎尽忠、上岡忠泉、綾部報泉、中村国泉となり許証をいただいた。綾部報泉は勇躍出征、横須賀海兵団に入り、数日にして土浦海軍航空隊に配属、終戦までここで軍務についていた。次に吉崎

尽忠は、戦時中最も重要な、動員召集事務を司る横須賀市役所戸籍兵事課長に栄転、日ならず私にも赤紙が来、横須賀海兵団に入り、数日にして第九〇三海軍航空隊に配属、次いで館山派遣隊に変わり、終戦時は館山海軍航空隊で軍務についていた。このような状態で、逗子出張所の松井教場も光栄ある発展的解散をした。綾部報泉、上岡忠泉共に今は亡く、吉崎尽忠は現在逗子市老人会連合会長の職にある。

私は今、逗子銀詠支部、千葉香岳教場で明治生れの声をふりしほり、ようやく中伝をいただいた。当時教えてもらった詩吟は「木村岳風著皇漢名詩の吟じ方」という教本で、国体篇にはじまり、海南行・九月十日・九月十三夜陣中作等々であった。団体篇は、時局下でもあり、何回もおさらいし暗誦させられた。これは後日談だが、軍隊内上官の集りの前で、国体篇「ばくたり二千六百日日東肇国基神壽」を吟じ、酒一本頂戴した。教本以外では次の詩を教えてもらったが、むしろこの方をたゞきこまれた。先生には意図があつたことだったが、私達には多少くどい感もしたが、詩吟を習い、吟道精神を体得したことが、心身に及ぼした効果は、戦場に立ったものは尚更強く感じ、今更ながら先生の深慮の程をありがた

く思った。

君のため 何か惜しまん若桜

散って甲斐ある 命なりせば

国のため 散るひとひらは惜しまねど

仇には散るな 大和桜は

真珠湾九勇士を讃えて

山本元帥遺作

ますらおの ゆくてふ道をゆききわめ

わが若人ら ついに帰らず

今宵もや この月影をしるべにて

仇うちおらん 空の男の子は

大君の 御楯とただに思ふ身は

名をも命も 思はざるなり

陣中の作 竹中 正策

生死由来総是天 屍包馬革果何辺

只期報国無他念 笑立砲煙彈雨前

接山本元帥戦死報慨然有作

提督奉詔率驍幢 布哇緒戰奏奇功

氣吞八荒驚列国 驕米猜英無眼中

機上督軍叱雷聲 遺恨中道隕將星

拳國憤然繼公志 擊滅頑敵応忠靈

八荒(八方極遠の地)天下) 叱雷聲(空軍を叱咤激励する)

九勇士

仁賀保賀城

烈哉九勇士

胸臆秘計敢趨死

壯拳天祐之

覆滅敵艦須叟裏

功勳卓拔今古少其倫 想曾干尋海底笑身葬

魂護邦国千萬載 天下齊仰九軍神

一億国民ノ誓

本宮 三香

鉄石心堅一億民 無非義勇奉公人

八紘為宇在今日 擊滅米英応祖神

最後に一言つけ加えますが、とに角四十年前のことでもあるし、又老令でもあるので記憶違いもあるかと思いますが、その点御容赦願います。

戦後は御承知のとおりで、詩吟をつづけるような余裕もなく、松井先生に御無沙汰致し、且つ詩吟にも遠ざかっていたこと、この紙上を借りて御詫び申し上げます。

昭和六十年度

傾心会 理事会開催さる

とき 60年4月27日(土)6時30分より

ところ 逗子会館

(議題)

- 一、59年度会計報告
- 二、" 会計監査報告(相違なしと認む)

三、60年度予算案審議

◎六十年四月より傾心会費年額千二百円を千五百円に決定。

(報告・連絡)

逗子地区長 千葉劔岳

一年間の行事出吟に感謝。

大船地区長 下條亮岳

昨年の大船地区温習会に協力を感謝。

葉山地区長 沼田洗岳

7月7日の傾心会温習会に葉山地区は多忙の折だが多数参加をお願いする。

総務部長 加藤圭岳

入・退会届手続きは早目に。特に四月・十月については各々五日までに提出のこと。

入・退会届は別々の用紙に。58年5月(変)

印刷の用紙を使用する。

甲慰金の改定について。(対象初伝以上)

死亡II(本人五千元) 配偶者(三千元)

傷病により入院一ヶ月以上(本人二千元)

右連絡は支部長より地区長へ連絡。

死亡の時、支部旗は本人・配偶者を対象に。

許証部長 中村幸岳

来年度から審査課題一部変更、きまり次第発表(六月頃)

教務部長 竹石憲岳

吟向上の為指導者講習会に出席のこと。

総本部 「吟道」を購読してほしい。
夏期吟道講座（中伝以上）受付中。

企画部長 千葉香岳

山形吟行会現在36名申込あり。
7月7日の碩心会温習会に協力を。

広報部長 中村愛岳

連絡・報告事項等あるので月報は必ず目を通し、又保存されたい。

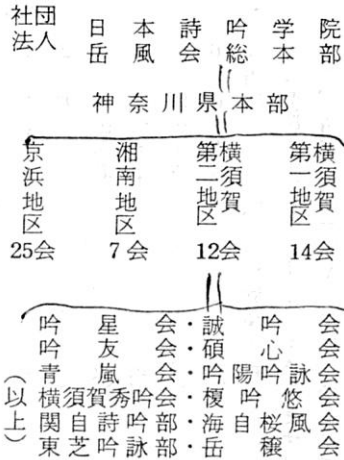
赤字訂正箇所を訂正の上配布されたい。
吟道に関する記事何なりと投稿を。

会計部長 秋元梁岳

納期を守り早目に納入してほしい。

(その他)

選抜予選会に松井正風さん三位入選、来る8月30日の全国大会に出場。上村象風さん次点に入選、県大会に出場。
組織の実態を全会員に把握させる。(後記)



◎ 横須賀第二地区大会

とき 60年6月16日(日)

ところ 鎌倉中央公民館分館

◎ 碩心会温習会

とき 60年7月7日(日)

ところ 逗子図書館ホール

山吹の里

堀内支部 白井 寿風

原文は漢文ですが、くだいた書き下し文に直して、ご紹介します。

初め道灌年弱くして、勇に誇り武に驕る。且に暮に山野に狩りし、健鳥を倒し猛獸を挫き、未だかつて人情に通ぜず。ある日、金沢山に狩す。にわか雨に遭い六浦を過ぎ、一草屋を訪いて蓑を乞う。答えなし。しばらくして一少女出て、山吹一枝を示し、ただ微笑するのみ。

(以下省略)

たまたま手にした高校用漢文教科書(昭三八・教育図書発行)に、右の文が載っていました。これは、幕末の歴史家飯田忠彦著作の「野史」の一節です。文中に、なじみの地名が二つ出ているので(頭注)を見

ると、地図入りで「¹金沢山は、相模、金沢町近くにある山。今の鷹取山か。²六浦は、金沢町の海岸」と説明してあります。

道灌の屋敷は、現在の鎌倉市扇谷にあったので、このような話題があっても、それほど奇異とすることはなくようです。しかし、高校教科書の教材となると、事情は少々違って来るのではないのでしょうか。

教科書では、もちろん「参考」として、次の関連資料が併記してあります。

1. 道灌叢を借るの図に題す 遠山雲如

〔漢詩 省略〕

2. ななへ八重

兼明 親王

小倉の家にすみ侍りけるころ、雨のふりける日、みのかる人の侍りければ、山吹の枝ををりとらせて侍りけり。後にまかりすぎて、又の日山吹の心もえざりしよし、いひおこせたる返事に、いひつかはしける。

ななへ八重花はさけども山吹の

みのひとつたになきぞかなしき

(後拾遺集)

3. 万葉集 卷十 春「詠花」

花吹きて実はならずとも長き日に

おもほゆるかも山吹の花(二八六〇番)

右の資料を年代順に整理してみると、次のとおりです。

1. 万葉集 (七五九編了)
2. 兼明親王 (九八七没)
3. 太田道灌 (二四八六没)
4. 後拾遺集 (二八二一選)
5. 飯田忠彦 (一八六一没)
6. 遠山雲如 (一八六三没)

(省略の漢詩は、大槻磐溪・新井白石または愛敬四山の作とする説もあります。)
さて、道灌は江戸城や川越城(埼玉県)を築城したと伝えられる武将であり、また歌道にも秀でていたことはご承知のとおり。そして、幕末に「山吹」の漢詩が流布するに及んで、これにちなんだ史蹟が三都県にまたがっています。東京都出身の方ならご案内のとおり、都内には「山吹の里」という地名が数カ所あるようです。なかでも、豊島区の神田川面影橋北側にある「山吹の里」の碑が有名。荒川区内には、山吹の花を差しだしたのは高畑三左衛門の娘だという言い伝えがあることから「山吹塚」がある。また、埼玉県越生駅ちよひの東にも「山吹の里」があり、道灌の立寄ったという農家が再現されて、観光ルートになっているとか。それに比べ、本県の六浦説はどのくらい根拠があるのだろうか。結局のところ、諸説紛々。いわゆる伝説であって、実話ではないらしい、ということであるようです。

鎌倉散策

桜らんまんの

四月十日は雨上りの絶好の行楽日和、今回は逗子から鎌倉へ抜けるコースの設定で、出発して間もなく久木大池の辺り：こんな近くに深山幽谷？の感有りて、野鳥の声を楽しみながら久木ハイランド通りに出ればなんと美しい桜並木：歓声をあげつゝ通り抜け、小高い十二所神社境内の桜の木の下での昼食は、幼い頃の遠足の思い出をよみがえらせた。鎌倉五山五位の浄妙寺の桜並木の参道、そして重厚な青銅の屋根の向うの裏山の桜が霞んでまさに一幅の絵となる。鎌倉最古の杉本寺、竹の報国寺のひっそりとした山門に色を添える桜。又柳、桜をこきまぜてまさに春の錦の源平池のほとり、そして最後の段葛は楽しい桜のブロムナードで、みちたりた一日でした。(愛岳)

石渡 桂風
囀りを 浴びて塩菅地蔵かな (光触寺)
満開の桜昼餉の輪をつゝみ (十二所神社)
竹の寺 今牙返る座禅堂 (報国寺)
葉狩 明風
花大根 ゆれて水かけ不動の目 (明王院)
山ざくら 仁王の肌に散りそむる (杉本寺)
春風や 魚影たしかを滑川 (滑川)

(訂正)

4月号支部別会員数一覧表中

逗子B8を7に
桜山B10を11に
沼間7を17に
堀内88を86に
諏訪指導者諏訪を井沢に

(入会)

- 698 矢板静枝(再) 逗子市逗子四一七―七―六六 (桜山A) (電)〇四六八―七―一五三五―一
- 699 乾 彰子 葉山町堀内六一五
- 0 (風 早) (電)〇四六八―七―五二〇〇―六
- 700 秋山美樹(少) 逗子市桜山六一二三―六一 (真 澄) 五一 葉桜マンション
- 701 秋山友香(少) (電)〇四六八―七―一五二八―五 (真 澄)
- 702 石川十二(再) 葉山町堀内一五五六一― (堀内・F) (電)〇四六八―七―五二四九九
- 703 鈴木利恵(少) 再 葉山町一色二四九三 (堀内・F) (電)〇四六八―七―五二四九二 (退 会)
- 562307 葉山孝泉(葉月) 540 矢島美奈子(堀内・F) 西田 稔(横警)



(練吟メモ都合で
今月は休載します)